

通知表を効果的に上げるには

CBC テレビで「ドラゴン桜」というドラマをやっています。原作は同名の漫画で、経営不振に陥った三流私立高校の再建として特別進学クラスをつくり、偏差値30台の生徒を東大に入学させるという話です。

フィクションだからあり得ない話でも面白ければよいともいえますが、この漫画が支持されているのは、あながち不可能では無いかもしれないと思わせる勉強法や受験ノウハウがストーリー中に散りばめられている点にあります。

各科目のプロ教師が登場し、それぞれの科目の効率的かつ合理的な勉強法を提示するのですが、これが奇をてらったものではありません。たとえば数学は基礎計算の習得に始まり、英語は単語や熟語の暗記を第1にあげています。もちろんそれを単純にこなすわけではありません。一日のうちでどの時間帯にどの科目の勉強をすると効果が上がるとか、どれだけの分量をどのくらいの時間で課していくかとかに言及し、東大理1への合格のみをターゲットにした「究極の省エネ受験術」を披露しているのです。

志望校合格のみを目的とした場合、確かにそこには「受験テクニック」が存在します。そしてそれはやはり塾などの受験産業に一日の長があります。たとえば旭丘や明和に合格するためにどの程度の学力をつける必要があるかは、私には完璧にわかっています。うちの塾生が第1志望校にまず合格するのは、まさにその結果なのです。

では、誰でも旭丘や明和に入れるのかということ、それには条件があります。本人に合格のための強い意志と指示をしっかり守る素直さ、それと基本的な理解力です。残念ながらドラマ（漫画）の場合、最後の基本的な理解力を無視して考えています。それが虚の部分にはなります。しかし確かに一般に一流校といわれるところであっても、入るためだけならば飛び抜けた才能は必要ありません。

最後にもう一つ、このドラマの真の部分があります。

主人公の弁護士先生が口にするのですが、「この世の中は頭のいい奴が自分たちの都合のいいようにルールを作っている。それは考えることを面倒がる奴らから搾取するためだ。一生だまされたくなくなったら勉強しろ。」という台詞です。

言い方はよくないかもしれませんが、「知識は力」なのです。日本国憲法第12条にもありますが、「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。」わけであり、知らないうちに憲法までもが誰かの手によって都合よく書き換えられるかもしれないのです。